

関連人物



浜崎 太平次
Tahiji Hamasaki

藩の財政を支えた豪商

薩摩の豪商。彼は薩摩藩の財政改革を支えた商人で、指宿の島津家別邸の温泉地の整備を行った人物でもあります。

西郷どんの足跡



鰻温泉

— 指宿市 山川 —

鰻池をのぞみながら入浴でき、西郷と江藤はこの国の行く末について議論しました。木造の建物にこぢんまりした浴槽、地元の人たちとの飾らない会話、往時をしのぶ温泉ならではの趣が楽しめます。

【住所】
指宿市山川成川6517

【問い合わせ先】
区営鰻温泉 TEL0993-35-0814

明治維新150周年 & 西郷どん放映!

2018年まで

あと 一 二 一 日

※2017年9月1日現在

次回「私学校の設立」※予定



狩りと温泉を愛した西郷どん

狩りを好んで県内各地を巡り、地域の温泉を訪れていた西郷どん。今回は、温泉地に残された西郷どんと鹿児島の人々のお話。



歴史深掘り
ストーリー

本文：南九州歴史学会
画：KENRO
監修：徳永 和喜(西郷南洲顕彰館)

第3話

西郷と温泉

県内各地のゆかりの湯

西郷隆盛が鹿児島で愛され続けている理由の一つとして、県内各地に西郷ゆかりの地が点在しているということが挙げられます。そして、県内各地に足跡が残っている理由は、狩りと温泉です。西郷はとても大きな体格だったので、普通の風呂ではなく、温泉が常でしたから、さまざまな温泉地で老若男女が共に入浴を楽しんでいた。温泉地で練り広げられた西郷と鹿児島の人々の逸話のうち、代表的なものをご紹介します。

湯治宿で、一カ月滞在したこともあり、入浴中に子どもたちは巨大な西郷に会うとあいさつし、西郷も丁寧に返したと伝わっています。また、地元の人と背中を流し合ったという話もあります。西郷は滞在中、地元の人々と語り合ったほか、昼夜問わず客が訪れ、遠方では水戸からの客もいたといわれています。西郷の弟・吉次郎は戊辰戦争の際、長岡(新潟県)で戦死しましたが、その時に伊作の地の人々も吉次郎とともに同地で多数亡くなっています。ともに温泉につきり、語り合うことで弟たちの供養をしようとしたのかもしれない。

日当山温泉(霧島市)にも西郷の温泉話が残っています。山野で地元の若者たちとウサギ狩りをした後、一緒に入浴。若者たちが一間(約一・八メートル)の「西洋手ぬぐい」で西郷の背中をふいてあげると、「これはこれは、ありがとう」と喜びました。そして豚骨やみそ汁などを一緒に食べたといわれています。

温泉地にやってきた江藤新平

鰻温泉(指宿市)は、鰻池の湖畔にある住時をしのぶ温泉地です。西郷は

この地にお伴の者二名と十三匹の愛犬を連れて来訪。朝夕温泉に入り、日中はウサギ狩りを楽しみ、時には自ら獲ったウサギをさばいて料理していました。狩りに出ない日は、子どもたちと湖畔で遊んだと伝わっています。この地に滞在していた時、突如この温泉に現れたのが佐賀出身の江藤新平です。彼は佐賀の乱を起こすも敗北し、西郷のもとを訪れたのです。江藤は西郷に鹿児島での決起を強く促しましたが、西郷はこれを拒否。江藤は断念し、逃亡を続けます。

障ることがなくよかったと書き残していたり、島津久光と藩の政治を巡って大議論をした後に指宿温泉(指宿市)まで入り行った話が残っていたりと、有名な温泉地には必ずといっていいほど西郷の伝説が残っています。西郷以外にも、幕末の偉人は温泉とゆかりの話を残しています。藩主になる前、指宿温泉を訪れ、現地で日時計などを作った島津斉彬。体が弱かったため、湯治で栄之尾温泉(霧島市)を何度も訪れ、歌も詠んだとされる小松帯刀。子どもの頃はいたずら好きだったというエピソードが入来温泉(薩摩川内市)に残る大久保利通。

このほか、栗野岳温泉(湧水町)に入浴しに行った際、大勢の入浴客がいたものの、皆地元の人々だったので気に

激動の幕末・維新の時代、志を持った偉人が癒され、大業を成し得たのは鹿児島島の温泉の力なのかもしれません。